

毎日新聞大阪社会事業団 2025年度事業報告

各公益事業ごとの事業報告詳細（千円以下を切り捨て表示しています）

◎「公募助成金」報告

国内外の地域で福祉活動に取り組む団体や先駆的事業でどこからも援助がない団体などを一般公募し事業助成する。今年度は9月～11月28日の期間、応募を受け付け、1月23日に選考委員会を開き、下記19団体に総額575万円の贈呈を決定。

公益事業1「公募福祉助成金」6団体に200万円（8P参照）

おおさかこどもココロネットワーク（大阪市）▽大阪府肢体不自由児者父母の会連合会（大阪市）▽officeドーナツトーク（大阪市）▽摂食障害よりみち（愛知県小牧市）▽ぽぽんがぽん（大阪府茨木市）▽LOVE EAST（石川県羽咋市）

* 高齢者福祉特別枠助成3団体に125万円（9P参照）

敬愛福祉会（島根県美郷町）▽高槻ライフケア協会（大阪府高槻市）▽ゆめ伴プロジェクトin門真実行委員会（大阪府門真市）

* 児童福祉特別枠助成3団体に100万円（9P参照）

春日みらい塾（高松市）▽子どもの居場所Yu-Ya（大阪市）▽つむぎ（大阪市）

公益事業2「シンシア基金公募助成」2団体に50万円（12P参照）

日本介助犬協会（愛知県長久手市）▽兵庫介助犬協会（兵庫県西宮市）

公益事業4「海外難民救援金公募助成」5団体に100万円（13P参照）

アフガニスタン女性支援プロジェクトEJAAD Japan（大阪府豊中市）▽こころのケアまごころ（福島県白河市）▽湘南とアジアの架け橋（神奈川県藤沢市）▽ネパール震災プリタム実行委員会（神戸市）▽モザンビークのいのちをつなぐ会（北九州市）

公益事業 1 国内外の福祉に関する事業

一般寄付金は3月末日現在で1,216件5,176万円（前年1,190件4,908万円）が寄せられた。

このうち歳末の「毎日チャリティー美術フェア」の売上金は、フェア終了後に個別に販売した分を合わせて計1,433万円。義援金978件1,260万円との合計は2,693万円（前年1,012件3,892万円、前年比約1,199万円減）となった。

一方、指定正味財産では「小児がん征圧募金」に98件202万円（前年92件114万円）が寄せられた。これらの資金をもとに次の事業を行った。

児童福祉に関する事業

主催事業

◎母の日・父の日募金キャンペーン（支払助成金より48万円支出）

「プレゼントをあげる親がもういない」との声をきっかけに、親を亡くしたり、一緒に暮らせない子どもたちを支援するキャンペーンで、5月3日と5月31日付朝刊で募金を呼びかけ、9月に、あしなが育英会に24万円、C V V（社会的養護の当事者支援団体）、子どもセンターぬつく、チャイルド・リソース・センターに各8万円の合計48万円を贈呈した。

◎「施設のこどもに卒業祝い金を贈呈」（支払負担金より125万円を支出）

大阪府下の児童福祉施設で暮らす高校生などを対象に、社会人としての心構えなどを学ぶ研修会を昨年7月から計15回行った。大阪児童福祉事業協会アフターケア事業部が主催し、本団後援。2月15日の閉講式では、本団の主催事業として、高校などを卒業する125人（全員）に激励の意味を込めて祝い金を1人1万円ずつ贈呈した。（研修会は1975年～・祝い金贈呈は1962年～）

共催分担金事業

◎そよかぜ杯ボウリング大会（支払負担金より60万円支出）

6月22日、大阪市の心斎橋サンボウルで近畿各地の交通遺児をはじめ、病気・災害遺児らとその家族など約100人が交流した。大阪交通遺児を励ます会と共催。

◎「ゆうゆうキャンプ」（支払負担金より40万円支出）

6月28～29日、家庭事情で様々な要因を抱えた子どもたちに他者とのかわり方や自然体験を学んでもらうための1泊2日のキャンプを、大阪府岬町の府立海洋センターで実施。大阪府青少年活動財団と共催。開催経費40万円を分担助成した。

◎小学6年生ハチ北林間ホーム

(支払負担金より10万円支出)

8月6～8日、大阪市管轄の児童福祉施設で暮らす小学6年生ら51人を、兵庫県香美町のハチ北高原に招待した。大阪市児童福祉施設連盟と共催。開催経費のうち10万円を分担助成した。

◎「第57回新春こども大会」

(支払負担金より5万円を支出)

1月25日、大阪市が管轄する児童福祉施設の子どもたちが、冬休みに練習した踊りや演劇などを大阪市港区民センターで発表した。大阪市、大阪市児童福祉施設連盟と共催。開催経費5万円を分担助成した。

◎「第38回駅伝・ロードレース大会」

(支払負担金より5万円支出)

2月21日、大阪市が管轄する児童福祉施設の小・中学生約200人が参加する駅伝・ロードレース大会を、大阪府吹田市の大阪市立弘済小中学校グラウンドとその周辺で実施。大阪市、大阪市児童福祉施設連盟と共催。

児童福祉特定団体助成・支援事業

◎「児童福祉特定団体助成」

(支払助成金より50万円支出)

2023年2月に寄託のあった寄付金1,500万円を基に2032年度までの10年間、児童福祉特定団体助成(年間50万円)と公募福祉助成金「児童福祉特別枠」(年間100万円)設け事業助成する。今年度の「児童福祉特定団体助成」はヤングケアラー支援を行う当事者団体「ふうせんの会」へ50万円を贈呈した。(公募福祉助成金児童福祉特別枠は8P「公募福祉助成金」欄を参照)

*** 自立支援プログラム いずみサロン**＝4月～2026年2月、名古屋市内の児童養護施設で暮らす中学3年生以上を対象に、自立支援のための調理実習や職業体験実習、学習会などを実施。就労支援事業サポートいずみが主催。費用の一部を助成後援した。(支払助成金より30万円を支出)

*** 琵琶湖セツルの家**＝7月1日～8月31日、滋賀県大津市の琵琶湖畔に宿泊施設を開設、保育所、児童館、子どもの家などの利用者に開放した。大阪市地域福祉施設協議会の主催。本団が単独で助成後援した。(支払助成金より8万円を支出)

*** 母と子の一泊旅行**＝7月12～13日、大阪府下の母子寮の親子40人を、和歌山県の白浜温泉と白浜アドベンチャーワールドへのバス旅行に招待した。大阪府民間母子生活支援施設連絡協議会の主催。本団は単独で助成後援した。(支払助成金より28万円を支出)

*** 里親ふれあいキャンプ**＝8月13～15日、小学1年生以上の里子を対象としたキャンプ。徳島県阿南市のY M C A阿南国際海洋センターで開催。毎日新聞社とともに愛の手運動(里親さがし運動)を展開する家庭養護促進協会が主催。本団が単独で助成後援。(支払助成金より18万円を支出)

＊第72回児童福祉施設スポーツ大会＝8月20～21日、名古屋市管轄の児童養護施設で暮らす児童・生徒の野球、ソフトボールの大会。大高緑地公園野球場で開催。名古屋市、同市社会的養育施設協議会が主催。費用の一部を助成後援した。（支払助成金より1万円を支出）

＊大阪交通災害遺族会、おりづる会への助成＝3月に「交通災害遺児のために」と本団へ寄託された中から、交通災害遺児への支援活動に取り組む「大阪交通災害遺族会」へ40万円、滋賀県の「おりづる会」へ10万円の合計50万円を助成した。（支払助成金より50万円を支出）

＊児童福祉施設に絵を贈る運動＝1月、子どもたちの情操教育の一環として「毎日チャリティー美術フェア」に寄せられた作品から絵画6点を愛知・岐阜・三重県内の児童養護施設に贈った。

医療福祉に関する事業

◎「小児がん征圧キャンペーン」 （支払助成金より910万円を支出）

1996年から毎日新聞社と展開している「生きる－小児がん征圧キャンペーン」と連動した「小児がん征圧募金」は、3月末日までに98件202万円（前年92件114万円）が寄せられた。3月6日に贈呈式を開き、次の13団体に各70万円ずつ計910万円を贈呈した。

1. 日本クリニクラウン協会（大阪市）
2. 京都大学医学部附属病院小児科ボランティアグループ
「にこにこトマト」（京都市）
3. 京都ファミリーハウス（京都市）
4. あいち骨髄バンクを支援する会（名古屋市）
5. 守口ぶどうのいえ（大阪府守口市）
6. こどものホスピスプロジェクト（TSURUMIこどもホスピス）（大阪市）
7. しぶたね（大阪府大東市）
8. ふくぷくばるーん（名古屋市）
9. 名古屋小児がん基金（同）
10. 京都・がんと生殖医療ネットワーク（京都市）
11. 未来ISSEY（香川県丸亀市）
12. ふくいこどもホスピス（福井市）
13. 愛知こどもホスピスプロジェクト（名古屋市）

高齢者福祉に関する事業

◎「公募福祉助成金・高齢者福祉特別枠」 （8P・公募福祉助成金参照）

2021年度に寄託のあった遺贈金を基に2026年度までの5年間、公募福祉助成金に「高齢者福祉特別枠」を設け、一般公募による事業助成をする。9月～11月28

日の期間、応募を受け付け、1月23日に選考委員会を開き下記3団体に総額125万円を助成した。

1. 敬愛福社会（島根県美郷町）
2. 高槻ライフケア協会（大阪府高槻市）
3. ゆめ伴プロジェクトin門真実行委員会（大阪府門真市）

◎配食サービス車贈呈事業（支払助成金より211万円支出）

国際高齢者年の1999年から始まった「配食サービス車贈呈事業」は、2月末から毎日新聞紙上などで公募し、6団体から応募があった。6月6日、学識経験者らによる選考委員会を開き、兵庫県朝来市生野町の特別養護老人ホーム「いくの喜楽苑」に贈呈が決定。12月17日に現地で贈呈式を行った。今回で38台目の贈呈となる。

心身障害者福祉に関する事業

共催分担金事業

◎第38回専門点訳・音訳講習会（支払負担金より100万円支出）

専門書の点訳、音訳の技術を修得するための講習会。受講後は点訳・音訳ボランティアとして活躍。日本ライトハウス情報文化センターと共催。

専門点訳講習会

- ・「東洋医学コース」7月8、22日、8月5、26日、9月2、16日 全6回、17人
- ・「楽譜入門コース」7月24、31日、8月7、21、28日、9月11、18、25日 全8回、24人

専門音訳講習会

- ・「グループリーダースキルアップコース」7月11、25日、8月8、29日、9月12日 全5回、18人
- ・「小説の読み方コース」9月26日、10月15日の講習を2回、合計32人
- ・「英語コース」10月3、10、17、31日、11月7、14、28日 全7回、17人

◎第28回視覚障害者ICT・サポートボランティア講習会

（支払負担金より30万円を支出）

1997年度からの継続事業で、視覚障害者の情報環境を支えるICT（インフォメーション・コミュニケーション・テクノロジー）機器を利用する視覚障害者に、操作方法などを教える指導者養成のための講習会。受講者を公募しiPhoneの機能などについて学ぶ。日本ライトハウス情報文化センターと共催。

- ・①5月10日 開講式、iPhone講習会、5人
- ・②5月31日 インターネット活用講習会、5人
- ・③6月28日 サピエ活用講習会、8人
- ・④7月26日 エクストラ センスプレーヤー体験会、13人
- ・⑤8月30日 NTTドコモ iPhone体験会、19人
- ・⑥9月27日 Windowsill基礎講習会、10人

- ・ ⑦10月25日 インターネット活用講習会、10人
- ・ ⑧11月15日 点字ディスプレイ相談会、4人
- ・ ⑨12月6日 iPhone活用講習会、8人
- ・ ⑩2026年1月24日 オンライン交流会（Zoom）、12人

◎「声の点字毎日」の発行（支払負担金より5万円支出）

全国の国立ハンセン病療養所7カ所で生活している視覚も皮膚感覚も失った人たちに点字毎日の「声の点字毎日デイジー版（月2回発行）」を寄贈する事業。費用の一部を、東京・西部社会事業団とともに5万円ずつ分担した。

◎第93回全国盲学校弁論大会（支払負担金より20万円支出）

10月3日、岐阜県立岐阜盲学校で開かれ、同校高等部専攻科理療科1年の花村彩乃さん（18）が優勝した。毎日新聞社点字毎日、全国盲学校長会と共催。本団は2002年度から共催に加わった。東京社会事業団も20万円、西部社会事業団は10万円を分担した。

心身障害者特定団体助成・後援事業

* 全大阪ろう社会人軟式野球大会（第1回年間リーグ戦及びプレーオフ戦）＝3月30日、4月6、20、27日、7月27日、8月10、31日、大阪府久宝寺緑地公園軟式野球場などで開催。本団が助成後援した。（支払助成金より1万円を支出）

* 第50回わたぼうし音楽祭＝奈良県大和郡山市のDMG MORIやまと郡山城ホール大ホールで8月3日に開催。最高賞のわたぼうし大賞には岡山市の瀬戸ナツミさんが作詩・作曲した「Live in the Now」が選ばれた。（支払助成金より20万円を支出。東京社会事業団は10万円、西部社会事業団も5万円を支出）

* 第51回愛知心理療育キャンプ＝8月22～24日、愛知県刈谷市の北部生涯学習センター・洲原ロッジなどで開催、助成後援した。（支払助成金より3万円を支出）

* 名古屋市視覚障害者協会の機関紙「のぞみ」第46号発行＝1月に発行した上記製作費用を助成した。（支払助成金より3万円を支出）

その他の社会福祉事業団体の事業助成

◎「公募福祉助成金」（支払助成金より425万円支出）

国内外の地域で福祉活動に取り組む団体や先駆的事業でどこからも援助がない団体などを一般公募し事業助成する。公募福祉助成金の中には期間限定の高齢者福祉特別枠、児童福祉特別枠を設けている。9月～11月28日の期間、応募を受け付けて1月23日に選考委員会を開き、下記12団体に総額425万円を助成した。

「公募福祉助成金」6団体に200万円

1. おおさかこどもココロネットワーク（大阪市）
2. 大阪府肢体不自由児者父母の会連合会（大阪市）

3. officeドーナツトーク（大阪市）
4. 摂食障害よりみち（愛知県小牧市）
5. ぽぽんがぽん（大阪府茨木市）
6. LOVE EAST（石川県羽咋市）

***「児童福祉特別枠」3団体に100万円**

1. 春日みらい塾（高松市）
2. 子どもの居場所Yu-Ya（大阪市）
3. つむぎ（大阪市）

***「高齢者福祉特別枠」3団体に125万円**

1. 敬愛福祉会（島根県美郷町）
2. 高槻ライフケア協会（大阪府高槻市）
3. ゆめ伴プロジェクトin門真実行委員会（大阪府門真市）

その他目的を達成するために必要な事業

◎毎日社会福祉顕彰（支払負担金より126万円を支出）

本団創立60周年記念事業として始まり、55回目。毎日新聞紙上等で公募して5月末に締め切り、全国から推薦された41件のうち次の3件が選ばれた。

- ◇特定非営利活動法人 チャイルド・ファンド・ジャパン（高橋潤理事長＝東京都杉並区）
- ◇中田ケンコさん（サンタナ学園校長＝滋賀県愛荘町）
- ◇特定非営利活動法人 やどかりプラス（芝田淳理事長＝鹿児島市）

◎「歳末たすけあい運動」（支払助成金より135万円を支出）

「義援金」募集や「毎日チャリティー美術フェア」を実施。義援金は978件1,260万円（前年1,012件1,334万円）で前年比74万円の減。「毎日チャリティー美術フェア」は、毎日新聞大阪本社地下1F うめだMホールで11月15日～17日に開催した。期間中の売り上げは1,425万円（同2,550万円）、前年比1,125万円の減となった。以上の寄金をもとに135万円を歳末慰問金として次の9団体に配分した。

大阪子どもの貧困アクショングループCPA0▽大阪更生保護施設連盟▽大阪家庭少年友の会▽こどもの里▽Homedoor▽チャイルド・ケア・センター▽エスペランス桑名（児童養護施設・三重県桑名市）▽麦の穂学園（同・岐阜県中津川市）▽宇宙（同・愛知県一宮市）。

残額は、今年度以降の公益事業1（国内外の福祉に関する事業）の資金として活用する。

◎「指定寄付金事業」（支払助成金より34万円を支出）

寄付金の中で助成先が特定された寄付金。「大分市佐賀関大規模火災義援金」「大船渡市林野火災災害救援金」など、18件34万円が寄せられた。34万円を支出した。

その他の名義後援事業

とき	案件名	ところ
4月12日、5月10、18、31日、6月1日	「令和7年度愛知県障害者スポーツ大会」	名古屋市緑区の名古屋グランドボウル、豊田市運動公園陸上競技場など
4月13、20日	「第45回愛知県聴覚障害者体育大会」	日進市スポーツセンター他（愛知県日進市蟹甲町家布58-1）
4月16日～11月20日	「第22回名古屋市障害者スポーツ大会」	名古屋市の小幡緑地公園球技場、パロマ瑞穂北陸上競技場など
4月16日～18日	「バリアフリー2025」ー第31回高齢者・障がい者の快適な生活を提案する総合福祉展ー	インテックス大阪（大阪市住之江区南港北1）
5月～8月1日（募集期間）	「第62回点字毎日文化賞」	毎日新聞東京本社での表彰式を予定
6月22日	認知症のひとと家族の会 愛知県支部「45周年記念講演会」	ウインクあいち（名古屋市中村区名駅4-4-38）
7月～2027年3月	関西いのちの電話 第61期「電話相談ボランティア養成講座」	大阪市天王寺区東上町8-30大阪城南教会会議室など
7月6日	「第41回愛知県聴覚障害者大会」	名古屋文理大学文化フォーラム（稲沢市民会館）稲沢市正明寺三丁目114番地
7月20日～2026年2月15日	2025年度「児童養護施設等入所児童及び里親委託児童に対する自立生活技術講習会（ソーシャル・スキル・トレーニング）」事業	シェラトン都ホテル大阪（大阪市天王寺区）
8月7日～11日	「第42回土と水と緑の学校」	和歌山県新宮市の高田地区一帯
9月2日	「第73回愛知県社会福祉大会」	IG Arena（名古屋市北区名城一丁目4-1）
10月11、12、13、18、19日	第43回スポーツフェスタ2025大阪	ヤンマースタジアム長居、大阪市長居障がい者スポーツセンター（大阪市東住吉区）など
10月19日	ファインエリアフェスティバル2025	堺市南区城山台5の府立障がい者交流促進センター（ファインプラザ大阪）など
10月21日	第75回施設従事者激励会	シティプラザ大阪（大阪市中央区本町橋2-31）
10月26日	第53回全大阪ろうあ者文化祭	大阪市長居障がい者スポーツセンター（大阪市東住吉区長居公園1-32）
11月9日	第70回名古屋市身体障害者福祉大会	名古屋市中区役所ホール（名古屋市中区栄4-1-8）
11月11日	第59回肢体不自由児者を支援するチャリティバザー	大阪府肢体不自由者協会・会議室（大阪市中央区法円坂1-1-18大阪市教育会館5階）

11月25日	第23回大阪救護施設合同文化事業	「シティプラザ大阪」大宴会場 SYUN-旬-(大阪市中央区本町橋2-31)
11月26日	令和7年度大阪府社会福祉大会	大阪国際交流センター・大ホール(大阪市天王寺区上本町8-2-6)
12月4～6日	「素のままが、ええやん! ♪」	豊中市立文化芸術センター 大ホール、多目的室
12月6日	第64回愛知県身体障害者福祉大会	知立市文化会館(知立市上重原町間瀬口116番地)
2026年1月16～20日	第45回『障がいのある子どもに学ぶ』図工展	長居障がい者スポーツセンター(大阪市住吉区長居公園1-32)
2月11日～15日(審査会は2月10日)	第60回名古屋市障害者作品展 示会	市民ギャラリー矢田 第1～7展示室(名古屋市東区大幸南1-1-10カルポート東 3・4F)
3月1日	第44回耳の日記念 聴覚障害者と県民のつどい	瀬戸市文化センター(愛知県瀬戸市西茨113-3)
3月7日	令和7年度 合同求人説明会「福祉のお仕事」就職フェア in OSAKA～ふくしに会おう・つながるマルシェ～」	OMM2階(大阪市中央区大手前1-7-31)

公益事業 2

シンシア基金事業

◎シンシア基金

(支払助成金より6万円を支出)

身体障害者をサポートする介助犬への理解を深め、育成や研究活動に役立てるため、1998年から阪神支局が始めたキャンペーンと連動して募金を呼びかけた。

3月末日までに寄せられた「シンシア基金」は18件65万円（前年20件87万円）となった。

＊「第27回身体障害者補助犬シンポジウム」＝身体障害者補助犬（盲導犬・介助犬・聴導犬）の社会的認知を促進するため、宝塚市、同市教委、NPO兵庫介助犬協会で作る実行委員会が宝塚市のソリオ宝塚メインプラザで11月18日に開催した。

◎シンシア基金公募助成

(支払助成金より50万円を支出)

身体障害者補助犬の育成や支援に関わる団体などに公募助成する。

9月～11月28日の期間、応募を受け付け、1月23日に選考委員会を開き下記2団体に50万円を助成した。

1. 日本介助犬協会（愛知県長久手市）
2. 兵庫介助犬協会（兵庫県西宮市）

その他の名義後援事業

◇「介助犬フェスタ2025」を名義後援＝5月17日、愛知県長久手市の愛・地球博記念公園 地球市民センターで実施した。日本介助犬協会の主催。

◇「～盲導犬育成支援のための～第43回日本ライトハウスチャリティコンサート」を名義後援＝6月15日、大阪市北区のザ・シンフォニーホールで実施した。日本ライトハウスの主催。

公益事業 3

災害救助に関する事業

◎「災害救援基金事業」

* 令和 6 年能登半島地震救援金 (支払助成金より150万円を支出)

2024年 1 月 1 日に石川県能登半島を震源とする地震が発生。1 月 5 日から「能登半島地震被災者救援金」の受け付けを始めた。3 月末日までに大阪社会事業団に寄せられた救援金は35件、174万円（前年300件、1,458万円）。9 月 8 日に第 6 次分80万円を石川県に贈呈、2 月にも第 7 次分70万円を石川県に贈呈した。これまでの贈呈総額は4,767万円となる。

* 東日本大震災救援金 (支払助成金より17万円を支出)

3 月末日までに11件13万円（前年10件20万円）が寄せられた（* 総合計8,025件 4 億8,660万円）。3 月に第24次分として、前年度からの繰越金と併せて17万円を、宮城県に贈呈する予定。贈呈総額は 4 億7,554万円となる。

* 毎日希望奨学金 (支払助成金より5,868万円を支出)

東日本大震災で保護者を亡くした震災遺児の学業を支える「毎日希望奨学金」（毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団、毎日新聞社で創設）は15年目を迎えた。3 月末日までに313件1,003万円（前年372件925万円）が寄せられた。

3 月11日付朝刊で「奨学生募集」の社告を掲載するとともに、被災地の高校や大学などに照会をかけた。50人の募集枠に対して49人が応募。5 月14日、有識者らによる選考委員会が開かれ、全会一致で49人に支給が決定。奨学生数は継続者とあわせて163人（高校生69人、短大・大学・大学院生86人、専修学校生8人）。なお、今年度より月額給付額を 2 万円から 3 万円に増額した。

また、毎日希望奨学金への寄付の受け付けは2026年 3 月末で休止した。

・ 4 月25日、114人（4、5、6 月分）	1,026万円
・ 6 月25日、49人（4、5、6 月分）	441万円
・ 7 月25日、163人（7、8、9 月分）	1,467万円
・ 10月24日、163人（10、11、12月分）	1,467万円
・ 2026年1月26日、163人（1、2、3 月分）	1,467万円

合計5,868万円を支給

◎海外難民救援キャンペーン

(今年度は支出なし)

国際児童年(1979年)に毎日新聞社との共催で「飢餓・貧困・難民救済キャンペーン」としてスタート。記者を海外に派遣し、帰国後の紙面展開で苦境にある子どもたちの現状を克明に報じると共に救援を呼びかけている。

*「海外難民救援金」

3月末日までに141件275万円(前年341件555万円)が寄せられた。
広く一般から申請を受け付ける「公募助成」と、これまでの取材地で引き続き援助が必要と判断された「継続助成」の二つの支援を行う。いずれも活動内容や実績などから選考している。

◎「公募助成」

(支払助成金より100万円を支出)

海外での支援活動を行う民間団体やそれに準じる団体に公募助成する。

9月～11月28日の期間、応募を受け付け、1月23日に選考委員会を開き下記団体に総額100万円を助成した。

1. アフガニスタン女性支援プロジェクトEJAAD Japan(大阪府豊中市) 20万円
2. こころのケアまごころ(福島県白河市) 20万円
3. 湘南とアジアの架け橋(神奈川県藤沢市) 15万円
4. ネパール震災プリタム実行委員会(神戸市) 20万円
5. モザンビークのいのちをつなぐ会(北九州市) 25万円

◎「継続助成」

(支払助成金より100万円を支出)

1. テラ・ルネッサンス 50万円
2. 難民を助ける会(AAR Japan) 50万円

*「ミャンマー地震救援金」

(支払助成金より350万円を支出)

2025年3月28日にミャンマー中部を震源とする地震が発生。4月1日より「ミャンマー地震救援金」の受け付けを始めた。9月30日までに196件397万円が大阪社会事業団に寄せられた。これまでに次の3団体に合計350万円を贈呈した。

1. 国際連合世界食糧計画WFP協会(横浜市:150万円)
2. 難民を助ける会(AAR Japan、東京都:100万円)
3. テラ・ルネッサンス(京都市:100万円)

2025年度事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2026年5月

公益財団法人 毎日新聞大阪社会事業団

以上